

## ナセBA 一市立米沢図書館 Book & Art よねざわ市民ギャラリー

古藤 浩 東北芸術工科大学

### 1. はじめに

「“なせびーえー”はここですか」と尋ねて「違いますよ」と言われ、エッと思ったら「“なせば”です」と返ってきた。ナセBAは第九代米沢藩主上杉鷹山公の名言の一つ「なせばなる」を由来とする公募で決められた名称で、BAはBookとArtの頭文字の組み合わせでもある。

米沢市中心市街地活性化の拠点となることを企図して、ナセBAは米沢市によって2016年7月2日にオープンしました。1Fが「よねざわ市民ギャラリー」、2F以上が「市立米沢図書館」となっています。市立米沢図書館としては、市中心部に戻ってきたといえます。

東北支部では1Fの研修室をお借りして、2017年3月の支部南ブロック研究発表会を開催し、併せて本館の見学会をおこないました。本稿は見学会の報告と説明となります。

### 2. 施設の概要

ナセBAの敷地面積は3,218m<sup>2</sup>、延床面積は6,193m<sup>2</sup>です。同時に駐車場棟（3階4層、153台）も作られました。写真1に見るように、木材が多く使われ暖かい感じます。米沢市有林杉材の間伐材が使われているそうです。

写真2は2Fから撮った図書館の内観です。3F～5Fは開架部分となり、一般市民は入れないスペースとなっています。しかし、写真2に見る壁沿いの書庫の外側に囲むように閲覧・学習スペースが広がるなど十分広い2Fと感じられます。

開館以来7月～2月の7ヶ月間の来場者数は図書館部27万人、1Fの利用も合わせて33万人です。平成22年度の市立図書館の年間利用者数が15.5万人だったのに比べると、約3倍のペースであり好調と思われます。



写真1 ナセBAの外観

### 3. ナセBAを拠点とした中心市街地活性化

米沢市は中心市街地の衰退が進み、ナセBAの向かい側のビル（写真1の左側）も（ほぼ）廃ビルとなっています。ナセBAは中心街に若者、女性、高齢者を戻して衰退を止めようというコンセプトの拠点施設となっています。

まず、気持ちのよい学習スペースがあること。見学会あった日曜午前にもたくさん的高校生がいました。

次に、高齢者を呼ぶ工夫がなされていること。特殊なものを含む多くの郷土資料が開架で閲覧可能です。歴史のある米沢市では先祖捜しなどの目的で郷土資料を探しに来る高齢者も多い状況に応じています。

さらに、1万5千冊の絵本等児童書を開架書架においていること、児童に“読書通帳”を無償配布し、図書館で印字できるようにする、といったことによって多くの子連れの女性層や児童が来ているそうです。

さらに、外部に飲食店やマーケットができることを企図し、館内はペットボトルの持ち込み可であり、カフェ等も最低限のもの一つだけの設置になっています。

ナセBAは当初計画では現在の廃ビルの位置に建設予定でした。しかし、全テナントの退去が実現しなかったため現位置となりました。そのため、駐車場から図書館への通路は作れませんでした。今後、廃ビルの場所が地区の魅力をより高める施設となることが待たれます。

しかし、ナセBAを拠点とした市街地活性化がなりそう、いや“なせばなる”ことが強く感じられた見学会でした。

最後に、お忙しい中、丁寧に館内を説明して下さった村野隆男館長に感謝いたします。

参考資料：米沢市HP 新文化複合施設整備事業  
<http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/3025.htm>

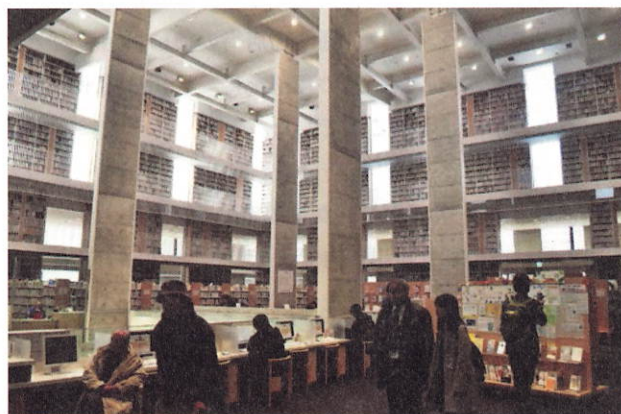


写真2 市立米沢図書館の内観